

ともしび

大切なご縁



井上直之
(釋直道)



今年の夏は雨が多く、晴れの日があっても、夕方から突然の大雨などということもありました。

ある日、そのせいで干していた洗濯物が台無しになり、私はひとりでコインランドリーに行くはめになりました。当たらない天気予報に加え、無駄な時間、無駄なお金を費やし、あまり気分の良いものではありません。

しかし、洗濯が終わると、私はあることに気づかされました。乾燥機から取り出した次女の新生児用の服、長女の子供服。妻の服。それらをひとつひとつ袋に詰めていると、家族の顔が浮かんできて、普段いて当たり前だと思いついていた家族という存在が、とても有り難く感じたのです。

そして家に戻ると、すぐに妻と言い合ったりして結局普段の生活に戻ってしまうのですが、自分自身を振り返り、気づかされるご縁というものは、人間や生き物から

住職、坊主、ご門徒、そして近いところでは私の祖父母を含め様々な人々の努力によって支えられてきたからです。

親鸞聖人から始まったこのご縁を大切に思い、みなさまとともに今年の報恩講をお勤めさせていただきます。

今年の六月に誕生した次女弥那(みな)と二歳の長女彩弥(さや)もお参りさせていただきま

♪宗願寺合唱団(仮称)を設立

この度、宗願寺の合唱団を設立しました。月に一回、今年七月から練習を始めました。この合唱団は仏教讃歌を中心に歌わせていただきます。

仏教讃歌の特徴は、人の心に響く美しいメロディーはもちろん、仏教の教えに基づいた歌詞の素晴らしさだと思います。

私が宗門の音楽に携わってきたことを機に、布教の一環として始めることを心に決めました。皆さま、どうぞよろしくお願ひいたします。

(直道記)

♪団員募集

宗願寺の門徒(檀家)であるなしに関係なく、希望者は参加できます。会費は一ヶ月五百円

♪住職プロフィール

桐朋学園大学音楽部声楽科
ディプロマコース出身

築地本願寺合唱団「楽友会」の指揮者を五年間勤め、現在はご本山西本願寺の仏教讃歌布教活動に携わりながら、築地本願寺講師、各コーラス団体の指導にあたる。

築地本願寺報恩講団体参拝

今年度は、仏壯と仏婦、会員以外のご門徒さん、皆一緒の参拝となります。

東日本大震災の直前、茨城西組の僧侶や家族や新門さまを囲んでの話し合いが、ここ宗願寺を会所として行われました。

集会所の火事の影響がまだ残る宗願寺にお参りくださり、火傷をした母に優しく声をかけてくださった当時の新門さまが、築地本願寺にご門主としていらつしやいます。ご一緒に参拝いたしましょう。

11月13日(月)

朝9時 古河駅集合

築地場外市場で昼食
築地本願寺にて

午後1時の法話と法要
法要後帰途につきます。

築地本願寺では、境内に新しい建物ができ、以前とはだいぶ違う雰囲気になりました。

そうなるからには初めての団体参拝です。参加希望者はお寺までご連絡ください。お待ちしております。

注意! 境内で車上あらし

九月二十九日の午後三時から四時半位の間に、境内の駐車場に止めてあった車の窓ガラスが割られ、中に入ったバッグが盗まれました。お寺の駐車場でそんなことが起こるのは悲しいことですが、皆さま、お気をつけください。

お知らせ

成道会法要とコンサート

12月10日(日) 午後2時
(正午よりバザーがあります)

修正会
1月1日(月) 午前10時

御正忌報恩講

門信徒会新年会
1月14日(日) 午前11時

立春拝賀式

仏教婦人会新年会
2月4日(日) 午前11時

※十二月十日、成道会のバザーにご協力ください。品物を出してください。買物をしてください。ダーナ献金に参加することになります。

手作りケーキに石釜で焼くピザ、焼きそば、お惣菜、おはぎ等々。手編みのセーターも販売いたします。どうぞよろしく!



研修会報告

〈仏教壮年会〉

全国仏教壮年大会に

参加して

田淵 正大

第二十二回全国仏教壮年東北大会が「ともにいのち輝く朋友の笑顔」を掲げて九月二日に仙台市市民会館で開催され、宗願寺からは辻幸夫さん、手島光一さんと私の三人が参加してきました。

千三百名の讃仏偈が続いてのご挨拶で、専如ご門主は「この大会をご縁として、震災後の現況が各地に伝わることで、それぞれができる支援活動を継続していただきたい」と結ばれました。



ご挨拶される専如ご門主

三日の「特別研修会」で、私たちは名取市・閑上地区を訪れる班に加わり、専能寺を訪問しました。お寺が浜から一キロ以内であったため、2メートル半の津波に襲われたそうです。

楼門は流され、何もかも泥の中にひっくり帰った状態で、多くのご門徒さんが亡くなられました。

途方に暮れていた中、四月初めには北海道の門徒ボランティアの方々が駆けつけ「秋の報恩講まで

に」を合言葉に骨身を惜しまぬ復旧作業を続け、五月には仮堂で亡くなった方々の合同葬儀を勤め、報恩講は本堂で勤めることができましたとのことでした。

「本当に御同朋の有難さをつくづく感じました」というご住職の言葉は、感慨深いものでした。

その後、人工の汐見台である「日和山」に向かい、被災体験をされたボランティアの方々の話を聞きました。

表面的には復興が進んで、被災者に対する想いが次第に希薄になっていくことを自然のことと考えている自分の無神経さは、煩惱の裏返しではないのかという疑問が浮かびます。様々な気づきを得ただけだ二日間でした。

〈仏教婦人会〉

九月五日〜六日、熱海市にて、東京教区仏教婦人会連盟の一泊研修会が開催されました。参加した方々の感想です。

「仏教婦人の生き方、と題されたご講師のお話が今までになく素晴らしい、熱心に聴聞することができました。分かりやすく面白くて、浄土真宗の大切な部分を教えていただくことができました」

嘉神佐智子

「懇親会でのみなさんの出し物、フラダンスや親鸞音頭など、よく練習されていて、とても楽しく、

素敵な時間を過ごせました」

渡辺 芳子

「ご講師のお話に感動した夜、同室の光徳寺さんや長命寺さんからの参加者とゆっくり語り合えたことが心に残ります」

平野 正子

とても良い研修会だったので、来年はもっと大勢で参加したい、というのが、皆さんの感想でした。

〈寺族女性会〉

九月二十七日、宇都宮市観専寺にて、東京教区北ブロック寺族女性一日研修会が開催されました。

ご講師合群信哉師は「北関東の親鸞さま」のご講題で、義絶した息子善鸞や弟子たちの当時の力関係など謎の多い部分について、お話くださいました。

私は親鸞聖人の悲しいお心を思いながら、聞かせていただきありがとうございました。

午後の大谷資料館では、足が悪いために見学できませんでしたが、多くの友達に会えて楽しい一日を過ごすことができました。

(由真記)

彩弥と弥那との日々

井上明寿子



彩弥 2才5ヶ月



弥那 4ヶ月

おかげさまで次女の弥那も無事に四ヶ月を迎え、一層賑やかな日々となってきました。

しかし、小さな身体はまだまだ頼りなく、病院のお世話になることもあります。

先日は便秘で「崖の上のポニョ」のようなお腹になり、気を揉み、お腹も揉み、病院の混雑に揉まれてようやく解消となりました。

また、ワクチンの接種では、長女の彩弥が自分が注射を打たれるのだと思いき、泣きそうな顔で妹の予防接種を見守っていました。

今では笑い話ですが、娘たちが一生懸命生きているから自分も一生懸命になれるのだと、改めて実感しました。

妊娠中は「親になる」と思っていた私が、今は「親になっていく」というご縁をいただいています。

このことを忘れずに日々を過ごしていきたいと思っています。

後記 編集



お東の女性僧侶で、インド在住の石井遊佳さんが、この度「百年泥」という作品で、第四十九回新潮新人賞を受賞、小説家デビューされました。

凛とした風情の静かな方です。会える時は、一緒に楽しくお酒を飲みます。彼女が受賞を仲間知らせたメールが印象的でした。

昔から小説を書いていて、延々と新人賞に応募し続けたものなかなかデビューの機会には恵まれなかった。それでも、将来必ず自分が小説家になるということを疑ったことは金輪際なかった、とのこと。私が驚いた彼女の言葉をここに写します。

「本気で賭けるべき夢のある人は何があるうが一生涯、いえ七生十生絶対に諦めないことが肝要だと、あらためて思います。仏さまは私を見ていてくださったのですね。」

そんな強い意志が、彼女の思いだったことが意外だからです。さて、今年には天候不順のせいで、境内の実りがいつもと違います。ミカンが豊作で、ギンナンが不作。どちらも、報恩講のお斎のお膳に登場します。楽しみですね。

合掌



発行・宗願寺門信徒会
編集責任者・井上由真
(由美子)
カット・大建弘子
(印刷所・阿部印刷)